

平成 16 年度国土施策創発調査

上下流連携促進のための
普及啓発支援ツールの検討業務

報 告 書

平成 17 年 3 月

国土交通省 河川局
河川環境課

上下流連携促進のための普及啓発支援ツールの検討業務

報告書 目次

1. 業務概要	1-1
1.1 業務の目的	1-1
1.2 業務概要	1-1
1.3 検討内容	1-2
2. 上下流連携の実態調査	2-1
2.1 上下流連携の事例調査	2-1
2.2 アンケート対象河川・事例の抽出	2-1
2.3 アンケート内容の検討	2-9
2.4 アンケート調査結果とその分析	2-11
3. 上下流連携の類型化	3-1
3.1 各視点による分類	3-1
3.2 事例の類型化	3-7
4. 上下流連携の推進方策に関する検討	4-1
4.1 上下流連携の現状と問題点・課題	4-1

1. 業務概要

1.1 業務の目的

本業務は、過疎化、少子高齢化に伴い様々な問題点を抱えている源流域に対して、全国で行われている水源地域と下流域が連携した交流体験や地域づくりなどの取り組みについて、先進的に進められている上下流連携の現状を明らかにし、連携の基本理念は何か、連携が地域に及ぼす効果は何か、連携の必要条件は何か、また、連携の類型化を行い、上下流連携の推進方策について検討するものとする。

1.2 業務概要

(1)業務名

上下流連携促進のための普及啓発支援ツールの検討業務

(2)委託者

国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所

(3)受託者

財団法人 ダム水源地環境整備センター

(4)契約額 6,510,000 円

(消費税額 310,000 円)

(5)工期

平成 17 年 2 月 24 日～平成 17 年 3 月 25 日

(6)業務実施項目

1. 計画準備
2. 上下流連携の実態調査
3. 上下流連携の類型化
4. 上下流連携の推進方策に関する検討
5. 報告書作成

1.3 検討内容

本業務の検討内容を以下に示す。

1.3.1 計画準備

本業務の目的及び内容の把握、業務の実施計画、工程計画の立案を行うとともに、業務計画書を作成し、業務に必要な準備作業を行った。

1.3.2 上下流連携の実態調査

上下流連携の実態を把握するために、上下流連携の実績がある流域を全国から抽出し、地域資源の現状、連携の具体的内容（連携目的、開始年、事業主体、活動内容、参加団体、計画など）連携を支える主体、課題等に関して実態調査を行った。

1.3.3 上下流連携の類型化

上下流連携の実態調査によって収集された資料を基に、地域、事業主体、活動内容・目的等の視点から連携の類型化を行った。

1.3.4 上下流連携の推進方策に関する検討

上記の検討を統合し、現在進められている上下流連携の現状と課題を整理した。

1.3.5 報告書の作成

検討結果の照査を行い、業務の目的を踏まえ、業務の項目毎に決定された成果をもとに業務の過程、結論についての的確に記した報告書を作成した。

検討のフローは次の通りとした。

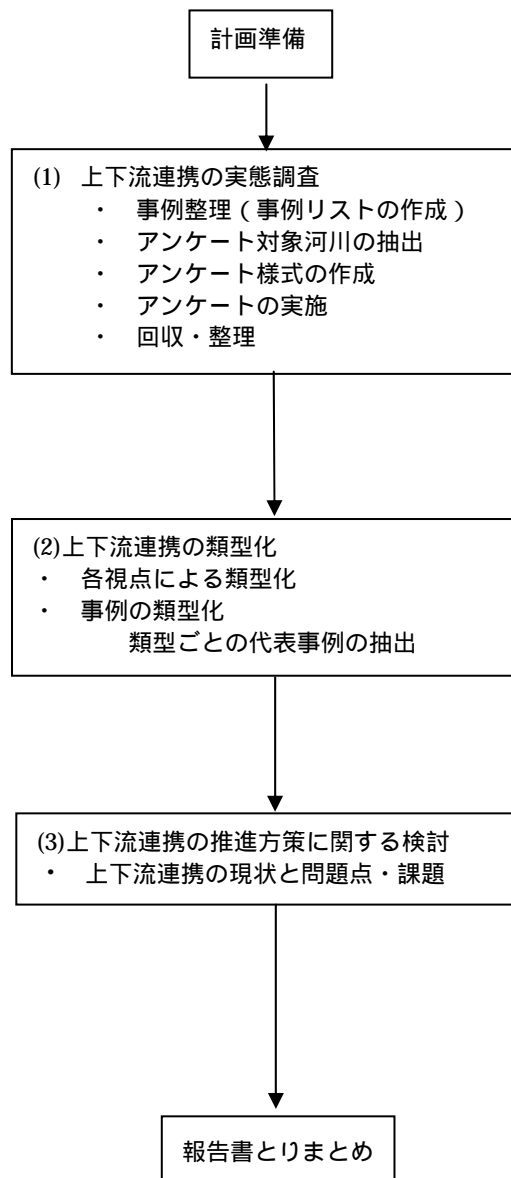


図- 1.1 検討のフロー

2. 上下流連携の実態調査

2.1 上下流連携の事例調査

上下流連携を実施している事例を、広く全国から収集し、リスト化した。調査は、以下の資料を参考とした。

表- 2.1 事例収集の出典

出典名	備考 (URL 等)	収集数
「川や水の活動団体名簿」	社団法人日本河川協会 http://www.japanriver.or.jp/r_wcho/sa/kensaku/kensaku_Frame.htm	20
「河川整備基金助成事業データベース」	財団法人河川環境管理財団 http://wdb.kasen.or.jp/index.asp	10
国土交通省各事務所	河川環境課から各事務所に調査依頼	168
ダム水源地域サポート事業申請者リスト	財団法人ダム水源地環境整備センター助成事業	27
「ダム水源地ネット」掲載事例	財団法人ダム水源地環境整備センター発行誌	20
合 計 (重複分を除く)		223

2.2 アンケート対象河川・事例の抽出

事例リストを作成した中から、アンケートの対象とする河川・事例を抽出した。事例抽出の観点は、下記によるものとした。

- ・ 上下流交流の古くからの実績があること
- ・ 上下流交流の内容を多岐にわたって実施していること
- ・ 典型性、先進性、独自性などの特徴があること
- ・ 源流再生、森林保全という観点でも活動していること

表- 2.2 アンケート対象河川の抽出

地方	河川・流域名
北海道	石狩川水系、沙流川水系
東北	岩木川水系、北上川水系、阿武隈川水系
関東	利根川水系、荒川水系、多摩川水系、相模川水系、酒匂川水系
北陸	手取川水系、九頭竜川水系
中部	天竜川水系、豊川水系、木曾川水系、宮川水系
近畿	淀川水系、紀ノ川水系、新宮川水系
中国	千代川水系、日野川水系、斐伊川水系、江の川水系、旭川水系
四国	吉野川水系
九州	遠賀川水系、山国川水系、筑後川水系、嘉瀬川水系、緑川水系、五ヶ瀬川水系
	31 水系

以上により、アンケート対象河川 31 水系、69 事例を抽出した。次ページ表 2-3 から、全 223 事例のリストとともに、アンケート調査対象に選んだ 69 事例を「アンケート対象」欄に をつけて示した。また回答のあった事例を をつけて示した。

表-2.3 上下流連携 事例調査一覧

注 アンケート対象欄の は送付、 は回答有りを示す。

	水系名	河川名	ダム名	団体名	事業名	出典	アンケート対象
1	天塩川水系	天塩川	岩尾内ダム	北海道朝日町観光協会	岩尾内ダム上下流交流(舟みこし製作)	河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
2	天塩川水系	天塩川	岩尾内ダム	ASOV! (岩尾内・風の詩が聞こえる会)	-	国土交通省調査	
3	湧別川 水系	湧別川		湧別原野オホーツク100kmクロスカントリースキー大会実行委員会	-	国土交通省調査	
4	湧別川 水系	湧別川		みずウオーク2004実行委員会	-	国土交通省調査	
5	石狩川 水系	石狩川		石狩川下覧權	-	国土交通省調査	
6	石狩川 水系	キムン芦別川	芦別ダム	三笠市地域子ども会育成連絡協議会	-	ダム水源地域サポート事業申請者 (財)ダム水源環境整備センター「ダム水源地域サポート事業」	
7	石狩川 水系	漁川	漁川ダム	漁川の水を守る会	-	国土交通省調査	
8	石狩川 水系	豊平川支川 小樽内川	定山溪ダム	東海大学第四高等学校付属中等部	-	国土交通省調査	
9	沙流川 水系	沙流川		沙流川サケ、マス、文化研究会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
10	十勝川 水系	札内川	札内川ダム		-	国土交通省調査	
11	岩木川 水系	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	水源交流ツアー実行委員会・津軽森林管理署他16団体	-	国土交通省調査	
12	岩木川 水系	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	こげしの森林づくり実行委員会	-	国土交通省調査	
13	馬淵川 水系	馬淵川 新井田川 浅水川		馬淵川ランドワーク	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
14	北上川 水系	北上川		北上川流域市町村連携協議会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
15	北上川 水系	胆沢川	石淵ダム	北上川流域市町村連携協議会	-	国土交通省調査	
16	北上川 水系	胆沢川	石淵ダム	エコワークスイさわ水の郷	-	国土交通省調査	
17	北上川 水系	和賀川	湯田ダム	和賀川の清流を守る会	-	国土交通省調査	
18	鳴瀬川 水系	鳴瀬川		鳴瀬川水系の自然を守る会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
19	名取川 水系	暮石川	釜房ダム	ストップ温暖化センターみやぎ：個人川崎町の資源をいかす会	-	国土交通省調査	
20	名取川 水系	暮石川	釜房ダム	仙台市カヌー協会 川崎町の資源をいかす会	-	国土交通省調査	
21	阿武隈川水系	大滝根川	三春ダム	さくら湖自然環境フォーラム実行委員会	-	ダム水源地域サポート事業申請者 (財)ダム水源環境整備センター「ダム水源地域サポート事業」	
22	阿武隈川水系	白石川	七ヶ宿ダム	七ヶ宿協会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
23	阿武隈川水系	白石川	七ヶ宿ダム	宮城県七ヶ宿町総務課まちづくり推進室	水源の森を守るイベント「水守人ミーティングin七ヶ宿」	ダム水源地域ネット2004.8月号	
24	阿武隈川水系	白石川	七ヶ宿ダム	Eポート子ども交流会in七ヶ宿実行委員会	-	国土交通省調査	
25	米代川 水系	小又川	森吉山ダム	森吉山ダム工事事務所	-	国土交通省調査	
26	雄物川水系	玉川	玉川ダム	「健康だすか!」フェスティバル実行委員会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
27	雄物川水系	玉川	玉川ダム	玉川ダム交流会実行委員会	-	国土交通省調査	
28	最上川水系	最上川	長井ダム	県民ネット最上川	山形の母なる川～最上川を美しく・快適に～	ダム水源地域ネット2004.11月号	
29	利根川水系	利根川 檜俣川	矢木沢ダム、 藤原ダム、 奈良俣ダム、 須田貝ダム	奥利根水源憲章制定委員会(旧準備会)	水源地域の歴史と文化の価値を伝える 奥利根水源憲章	ダム水源地域サポート事業申請者 ダム水源地域ネット2003.11月号	
30	利根川水系	利根川 檜俣川	矢木沢ダム、 奈良俣ダム	合唱組曲「利根川源流讃歌」発表実行委員会 各地区合唱団	-	ダム水源地域サポート事業申請者 (財)ダム水源環境整備センター「ダム水源地域サポート事業」 国土交通省調査	
31	利根川水系	利根川 檜俣川	矢木沢ダム、 奈良俣ダム	奥利根インタープリター協会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
32	利根川水系	利根川 檜俣川	矢木沢ダム、 奈良俣ダム	「奥利根水源見学ツアー」実行委員会	-	国土交通省調査	
33	利根川水系	利根川 檜俣川	矢木沢ダム、 奈良俣ダム	「利根川水系上下流交流事業」実行委員会	利根川水系上下流交流事業について 利根川水系上下流交流事業	国土交通省調査 ダム水源地域ネット2004.10月号 ダム水源地域ネット2004.3月号	
34	利根川水系	利根川 檜俣川	矢木沢ダム、 奈良俣ダム	「利根川源流まつり」実行委員会	-	国土交通省調査	
35	利根川水系	赤谷川	相俣ダム	猿ヶ京ネットワーク	-	ダム水源地域サポート事業申請者 (財)ダム水源環境整備センター「ダム水源地域サポート事業」	

注 アンケート対象欄の は送付、 は回答有りを示す。

	水系名	河川名	ダム名	団体名	事業名	出典	アンケート対象
36	利根川水系		相俣ダム	にいほる自然学校	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
37	利根川水系		相俣ダム	新治ウォークラリー実行委員会	-	ダム水源地域サポート事業申請者 国土交通省調査	
38	利根川水系		相俣ダム	利根川上流交流実行委員会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
39	利根川水系	吾妻川	相俣ダム	ハツ場ダム工事事務所	-	国土交通省調査	
40	利根川水系	吾妻川	相俣ダム	越谷・松伏水道企業団(埼玉県)	-	国土交通省調査	
41	利根川水系	吾妻川	相俣ダム	埼玉県・埼玉県企業局	-	国土交通省調査	
42	利根川水系	吾妻川 湯西川 利根川	ハツ場ダム 湯西川ダム	千葉県上下流交流事業実行委員会(千葉県水政課)	ハツ場ダム上下流交流事業「水の大使」-水の貴重さ・大切さの発見-	ダム水源地域サポート事業申請者 ダム水源地ネット2004.5月号 国土交通省調査	
43	利根川水系	湯西川	湯西川ダム(建設中)	森と湖に親しむ旬間「鬼怒川実行委員会	-	国土交通省調査	
44	利根川水系		湯西川ダム(建設中)	茨城県	-	国土交通省調査	
45	利根川水系		湯西川ダム(建設中)	千葉県上下流交流事業実行委員会	-	国土交通省調査	
46	利根川水系		湯西川ダム(建設中)	栃木県宇都宮市	-	国土交通省調査	
47	利根川水系	渡良瀬川	草木ダム	水資源機構 草木ダム管理所 及び 東村	-	国土交通省調査	
48	利根川水系	渡良瀬川	草木ダム	東村・東村教育委員会	-	国土交通省調査	
49	利根川水系	渡良瀬川	草木ダム	草木湖祭り実行委員会 東村産業観光課	-	国土交通省調査	
50	利根川水系	渡良瀬川	草木ダム	わたらせ渓谷鐵道(株)	-	国土交通省調査	
51	利根川水系	神流川	下久保ダム	神泉村・東松山市水道課	-	国土交通省調査	
52	利根川水系	神流川	下久保ダム	神泉村、川口市水道局	-	国土交通省調査	
53	利根川水系	神流川	下久保ダム	独立行政法人水資源機構利根導水総合管理所、下久保ダム管理所	-	国土交通省調査	
54	利根川水系	鬼怒川	五十里ダム、川治ダム、川俣ダム、湯西川ダム(建設中)	森と湖に親しむ旬間鬼怒川実行委員会	-	国土交通省調査	
55	荒川水系	荒川		NPO法人 荒川流域ネットワーク	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」 ダム水源地ネット2004.8月号	
56	荒川水系	荒川	二瀬ダム	大滝村、上福岡市	-	国土交通省調査	
57	荒川水系	浦山川	浦山ダム	秩父市、秩父市教育委員会、秩父宮会、秩父市体育協会、埼玉陸上競技会、高篠陸親会	-	国土交通省調査	
58	荒川水系	隅田川		隅田川鮭の会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
59	利根川水系 荒川水系 四万十川水系	利根川 荒川(隅田川) 四万十川		隅田川市民交流実行委員会(略称:隅田川サミット)	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
60	多摩川水系	多摩川 小菅川		多摩川源流研究所	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
61	桂川・相模川水系	全域		桂川・相模川流域協議会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
62	桂川・相模川水系	桂川 相模川		桂川・相模川流域ネットワーク	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
63	桂川・相模川水系	中津川	宮ヶ瀬ダム	財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団	宮ヶ瀬湖周辺地域活性化イベントの開催	河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
64	桂川・相模川水系	中津川	宮ヶ瀬ダム	水源地域交流の里づくり推進協議会(神奈川県企画部土地水資源対策課)	-	国土交通省調査	
65	桂川・相模川水系	相模川 桂川	相模ダム	横浜市水道局	水源地の人々に感謝ー横浜市と水源地との交流ー 市民の力を活かした水源地づくりー道志水源林ボランティア活動ー	ダム水源地ネット2004.10月号 ダム水源地ネット2004.6月号	
66	桂川・相模川水系	相模川	相模ダム	神奈川県立相模湖交流センター協賛つき事業実行委員会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
67	桂川・相模川水系 酒匂川水系	相模川 酒匂川	相模ダム、津久井ダム、道志ダム、宮ヶ瀬ダム、三保ダム	「水源地域交流の里づくり推進協議会」	上流と下流の住民で支える水源地域づくり	ダム水源地ネット2004.1月号	
68	荒川水系	荒川	大石ダム	山形県、新潟県、福島県	-	国土交通省調査	
69	阿賀野川水系	阿賀野川		新潟県、福島県	-	国土交通省調査	
70	信濃川水系	信濃川下流		河川流域連携イベント実行委員会	-	国土交通省調査	
71	信濃川水系	信濃川		関越地域連携協議会	-	国土交通省調査	
72	信濃川水系	信濃川 千曲川		信濃川水系24時間水質一斉調査実行委員会	-	国土交通省調査	
73	信濃川水系	千曲川		千曲川河川事務所	-	国土交通省調査	
74	手取川水系	手取川	手取川ダム	手取湖げんき団	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
75	手取川水系	手取川	手取川ダム	美川漁協	-	国土交通省調査	

注 アンケート対象欄の は送付、 は回答有りを示す。

	水系名	河川名	ダム名	団体名	事業名	出典	アンケート対象
76	富士川水系	富士川		富士川ファンクラブ	富士川上下流交流会	河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
77	天竜川水系	天竜川 及び各支流		NPO法人 グリーン・エコピア・ネットワーク	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
78	豊川水系	豊川		(特)穂の国森づくりの会	-	ダム水源地ネット2004.8月号	
79	木曽川水系	木曽川	味噌川ダム	木曽川上下流交流記念行事実行委員会	木曽川上下流交流記念行事	河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
80	木曽川水系	木曽川	味噌川ダム	上下流のふれあいを推進する会(木祖村、日進市、味噌川ダム管理所)	木曽川を“絆”に上下流ふれあい運動	ダム水源地地域サポート事業申請者 (財)ダム水源地環境整備センター「ダム水源地サポート事業」 ダム水源地ネット2004.10月号 国土交通省調査	
81	木曽川水系	木曽川	味噌川ダム	木曽広域連合	交流から連携へ	ダム水源地ネット2004.8月号	
82	木曽川水系	木曽川	味噌川ダム	木曽広域連合と中部水道企業団	-	国土交通省調査	
83	木曽川水系	木曽川	味噌川ダム	日進市と木祖村	-	国土交通省調査	
84	木曽川水系	木曽川	牧尾ダム	(財)愛知・豊川用水振興協会 (独)水資源機構愛知用水総合事業部	愛知用水上下流交流一四十年の歴史と今後の展開方法一	ダム水源地ネット2004.6月号 国土交通省調査	
85	木曽川水系	木曽川		愛知用水受益市町連絡会議	-	国土交通省調査	送付先不明
86	木曽川水系	木曽川		未来世紀へつなく緑のハト実行委員会	-	国土交通省調査	
87	木曽川水系	馬瀬川	岩屋ダム	岐阜県下呂市・愛知県名古屋市	-	国土交通省調査	
88	木曽川水系	馬瀬川	岩屋ダム	名古屋市上下水道局	-	国土交通省調査	
89	木曽川水系	馬瀬川	岩屋ダム	三重県木曽岬町	-	国土交通省調査	
90	木曽川水系	木曽川 (一部信濃川)		水と緑のフェスティバル実行委員会	上下流交流事業「水と緑のフェスティバル'99 in木曽」の開催	河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
91	木曽川水系	揖斐川	尾原ダム	揖斐川流域環境ネットワーク	-	ダム水源地地域サポート事業申請者	
92	木曽川水系 員弁川水系	牧田川 砂子谷川 大平川	中里ダム	中里小学校	-	国土交通省調査	
93	鈴鹿川水系 中ノ川水系	鈴鹿川 中ノ川		水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
94	宮川水系	宮川		宮川流域ルネッサンス協議会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
95	宮川水系	宮川		森と水を守る会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
96	宮川水系	宮川	三瀬谷ダム	領内地域活性化グループ	-	ダム水源地地域サポート事業申請者	
97	淀川水系	淀川 桂川 宇治川(瀬田川) 木津川(名張川)	天ヶ瀬ダム 他	淀川水系ダム水源地ネットワーク	-	ダム水源地地域サポート事業申請者	
98	淀川水系	淀川 桂川 宇治川(瀬田川) 木津川(名張川)	日吉ダム、室生ダム、天ヶ瀬ダム 他10ダム	淀川水系ダム水源地ネットワーク	-	ダム水源地地域サポート事業申請者	
99	淀川水系	宇治川、 木津川、 桂川	天ヶ瀬ダム・日吉ダム・高山ダム・布目ダム・室生ダム・青蓮寺ダム・比奈知ダム(川上ダム・大戸川ダム・丹生ダム)	淀川水系ダム水源地ネットワーク	-	国土交通省調査	
100	淀川水系	宇陀川	室生ダム	淀川水系ダム水源地ネットワーク	-	国土交通省調査	
101	淀川水系	木津川	川上ダム	青山町川上ダム上下流交流会運営委員会	-	ダム水源地地域サポート事業申請者	
102	淀川水系	木津川		いがうえの大戸川生活排水浄化パートナー協議会	-	国土交通省調査	
103	淀川水系	木津川		木津川流域リフレッシュ事業推進協議会	-	国土交通省調査	
104	淀川水系	木津川		木津川流域ネットワーク	-	国土交通省調査	
105	淀川水系	桂川	日吉ダム	桂川流域ネットワーク	-	国土交通省調査	
106	淀川水系	桂川	日吉ダム	京都府・桂川流域ネットワーク	-	国土交通省調査	
107	淀川水系	猪名川支川 一庫大路次川	一庫ダム	社団法人 川西青年会議所	-	ダム水源地地域サポート事業申請者 国土交通省調査	
108	淀川水系	猪名川支川 一庫大路次川	一庫ダム	川西一庫ダム周遊マラソン大会事務局 川西市教育委員会	-	国土交通省調査	

注 アンケート対象欄の は送付、 は回答有りを示す。

	水系名	河川名	ダム名	団体名	事業名	出典	アンケート対象
109	淀川水系	猪名川支川 一庫大路次川	一庫ダム	一庫ダム水源祭り実行委員会(川西市、(社)川西青年会議所、(財)県立一庫公園、猪名川漁業協同組合、一庫ダム管理所)、(財)一庫ダムレクリエーションセンター	-	国土交通省調査	
110	淀川水系	布目川	布目ダム	(財)日本サイクリング協会	-	国土交通省調査	
111	淀川水系	布目川	布目ダム	布目湖釣り大会実行委員会、奈良県釣り人連盟、(財)日本釣振興会、布目川漁業組合、W.F.W.JAPAN	-	国土交通省調査	
112	淀川水系	布目川	布目ダム	布目ダム周辺地域開発協会、東山地区振興会、東山公民館、山添村	-	国土交通省調査	
113	淀川水系	布目川	布目ダム	やまぞえ布目ダムマラソン大会実行委員会・山添村	-	国土交通省調査	
114	淀川水系	琵琶湖		国土交通省琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所	-	国土交通省調査	
115	淀川水系	名張川	青蓮寺ダム・比奈知ダム	青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン 約40名	-	国土交通省調査	
116	近畿圏内全般(例:淀川、木津川、大和川、石川、近木川、庄下川)	近畿圏内全般(例:淀川、木津川、大和川、石川、近木川、庄下川)		近畿水の塾	-	国土交通省調査	
117	紀の川 水系	紀の川	大滝ダム	近畿建設協会	-	国土交通省調査	
118	紀の川 水系	紀の川	大滝ダム	吉野川・紀の川流域協議会(川上村、吉野町、下市町、大淀町、橋本市、かつらぎ町、高野口町、九度山町、高野町、花園村、打田町、粉河町、那賀町、桃山町、貴志川町、岩出町、和歌山市)	-	国土交通省調査	
119	紀の川 水系	紀の川	大滝ダム	和歌山大学教育学部付属小学校	-	国土交通省調査	
120	紀の川 水系	紀の川	大滝ダム	川上村立川上小学校・和歌山市立加太小学校	-	国土交通省調査	
121	紀の川 水系	紀の川	大滝ダム	川上村・和歌山市	-	国土交通省調査	
122	紀の川 水系	紀の川	大滝ダム	森と水の源流館	-	国土交通省調査	
123	新宮川 水系	熊野川	猿谷ダム	サマーレイクフェスティバル2004実行委員会	-	国土交通省調査	
124	九頭竜川 水系	九頭竜川	九頭竜ダム	自然楽校・九頭竜	-	国土交通省調査	
125	九頭竜川 水系	九頭竜川	九頭竜ダム	九頭竜まつり実行委員会	-	国土交通省調査	
126	九頭竜川 水系	日野川		(株)田中地質コンサルタント内環境文化研究所	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
127	九頭竜川 水系	真名川	真名川ダム	おおのネイチャーフィールド	-	国土交通省調査	
128	千代川 水系	袋川支川上地川	殿ダム	プロジェクト京ヶ原実行委員会	-	国土交通省調査	
129	天神川 水系	天神川、小鴨川、三徳川、国府川		天神川流域会議	-	国土交通省調査	
130	日野川 水系	日野川 法勝寺川 ほか		日野川の源流と流域を守る会	-	国土交通省調査	
131	斐伊川水系	斐伊川	尾原ダム	(特)斐伊川流域環境ネットワーク 通称:NPO法人斐伊川クラブ	-	ダム水源地ネット2004.8月号	
132	斐伊川水系	斐伊川	尾原ダム	島根県、雲南市(旧 木次町)、仁多町、NPO法人斐伊川くらぶ	-	国土交通省調査	
133	斐伊川水系	斐伊川	尾原ダム	雲南市(旧 木次町)、仁多町、NPO法人斐伊川くらぶ、斐伊川・神戸川総合開発工事事務所	-	国土交通省調査	
134	斐伊川水系	斐伊川	尾原ダム	雲南市(旧 木次町)、仁多町、NPO法人斐伊川くらぶ	-	国土交通省調査	
135	斐伊川水系	斐伊川	尾原ダム	農事組合法人 槻之野ヒーリング	-	ダム水源地地域サポート事業申請者	
136	斐伊川水系	斐伊川	尾原ダム	松江市水道局	-	国土交通省調査	
137	江の川水系	江の川		(特)ひろしまね(準備会メンバー) 現:NPO法人ひろしまね	-	ダム水源地ネット2004.8月号	
138	吉井川 水系	吉井川		吉井川流域ネットワーク	-	国土交通省調査	
139	旭川 水系	旭川		旭川流域ネットワーク(AR-NET)	-	国土交通省調査	
140	高梁川 水系	高梁川		GREEN DAY実行委員会(倉敷木材(株)、高梁川流域連盟など13団体)	-	国土交通省調査	
141	太田川 水系	太田川	温井ダム	広島市太田川流域振興交流会議	-	国土交通省調査	
142	太田川 水系	水内川		広島市、太田川流域振興交流会議	-	国土交通省調査	
143	太田川 水系	太田川流域全般		太田川たんけん協会	-	国土交通省調査	
144	佐波川 水系	佐波川		防府地区環境パートナーシップ(佐波川に学ぶ会)	-	国土交通省調査	
145	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム	吉野川源水をはくむ会	吉野川流域交流イベントの開催と記念誌の刊行	ダム水源地地域サポート事業申請者 河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
146	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム	れいほくNPO	-	ダム水源地ネット2004.8月号 国土交通省調査	
147	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム	吉野川水源地の森交流事業	-	国土交通省調査	
148	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム	早明浦湖水祭実行委員会	-	国土交通省調査	
149	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム	やまびこカーニバル実行委員会	-	国土交通省調査	
150	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム	さめうらの郷湖畔マラソン実行委員会	-	国土交通省調査	
151	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム	吉野川いかだまつり実行委員会	-	国土交通省調査	
152	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム・池田ダム	四国三郎(吉野川)ふれあい会議	-	国土交通省調査	

注 アンケート対象欄の は送付、 は回答有りを示す。

	水系名	河川名	ダム名	団体名	事業名	出典	アンケート対象
153	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム・池田ダム	吉野交流推進会議	-	国土交通省調査	
154	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム・池田ダム	香川県、香川県内中学1年生	-	国土交通省調査	
155	吉野川水系	吉野川	早明浦ダム・池田ダム	吉野川流域こだまフォーラム実行委員会	-	国土交通省調査	
156	吉野川水系	吉野川	池田ダム	池田へそっ湖まつり実行委員会	-	国土交通省調査	
157	吉野川水系	銅山川	柳瀬ダム 富郷ダム	四国中央市湖水まつり実行委員会	-	国土交通省調査	
158	吉野川水系	銅山川	富郷ダム	ボランティアの森委員会	-	国土交通省調査	
159	吉野川水系	吉野川		NPO法人新町川を守る会	四国三郎吉野川河川環境保全啓発事業	河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
160	吉野川水系	吉野川	吉野川源流(ダム事務所との連携なし)	ときめきダンスカンパニー四国	・創作ダンス公演「吉野川・川と生きる阿波の人」 ・絵と言葉とダンスで編集したVTRによる河川啓発活動	ダム水源地域サポート事業申請者 河川環境管理団体「河川整備基金助成事業データベース」	
161	土器川 水系	土器川		丸亀市立城辰小学校4年生	-	国土交通省調査	
162	肱川 水系	肱川	鹿野川ダム、野村ダム	肱川流域会議 水中めがね	-	国土交通省調査	
163	肱川 水系	肱川		野村ダム水源地受益地交流会実行委員会 宇和老人クラブ連合会	-	国土交通省調査	
164	肱川 水系	肱川		宇和ゲートボール連合	-	国土交通省調査	
165	仁淀川 水系	仁淀川	大渡ダム	仁淀川流域交流会議	-	国土交通省調査	
166	四万十川 水系	四万十川		四万十川流域住民ネットワーク	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」 国土交通省調査	
167	遠賀川 水系	遠賀川		遠賀川源流の森づくり推進会議	-	国土交通省調査	
168	遠賀川 水系	遠賀川		NPO遠賀川流域住民の会(芦屋町の自然を守る会等)	-	国土交通省調査	
169	山国川 水系	山国川	耶馬渓ダム	NPO豊前の国建設倶楽部	-	国土交通省調査	
170	筑後川水系	筑後川		福岡YMCA 日田林業500年を考える会 中津江村教育委員会 田島山業(株) 中津江村市ノ瀬地区自治会	市民による水源の森づくり(大分県中津江村)	ダム水源地ネット2004.11月号	
171	筑後川水系	筑後川		久留米市	-	国土交通省調査	
172	筑後川水系	筑後川		NPO法人 筑後川流域連携倶楽部	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」 ダム水源地ネット2004.8月号	
173	筑後川水系	筑後川		「水の森」の会	-	国土交通省調査	
174	筑後川水系	筑後川	江川ダム、寺内ダム、小石原ダム、	福岡県南広域水道企業団	水源地から有明海までの筑後川流域交流と水事情について	ダム水源地ネット2004.4月号	
175	筑後川水系	小石原川	江川ダム	小石原川ダム江川残存地区下戸河内ダム対策協議会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
176	筑後川水系	小石原川	江川ダム、小石原川ダム(実施計画調査中)	小石原川ダム・江川ダム残存地区下戸河内ダム対策協議会	-	国土交通省調査	
177	筑後川水系	小石原川	小石原川ダム(実施計画調査中)	小石原川ダム調査所	-	国土交通省調査	
178	筑後川水系	小石原川	小石原川ダム(実施計画調査中)	小石原川ダム調査所	-	国土交通省調査	
179	筑後川水系	筑後川 津江川	松原ダム 下笠ダム	渓谷まつり実行委員会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	
180	筑後川水系		下笠ダム	(株)ライウッド	-	国土交通省調査	
181	筑後川水系		下笠ダム	桜祭り実行委員会	-	国土交通省調査	
182	筑後川水系	佐田川	寺内ダム	水資源機構寺内ダム管理所	-	国土交通省調査	
183	筑後川水系	佐田川	寺内ダム	やまもりフェスタ実行委員会・甘木市、福岡市水道 水源かん養事業基金、甘木市森林組合	-	国土交通省調査	
184	筑後川水系	赤石川	大山ダム	独立行政法人水資源機構大山ダム建設所	-	国土交通省調査	
185	筑後川水系	赤石川	大山ダム	大山町・独立行政法人水資源機構大山ダム建設所・財団法人筑後川水源地域対策基金	-	国土交通省調査	
186	筑後川水系	玖珠川 大山川		筑後川上流倶楽部	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
187	松浦川水系	玉島川		川と自然を考える会	-	河川協会「川や水の活動団体名簿」	
188	松浦川水系	厳木川	厳木ダム	厳木ダム管理所、厳木町	-	国土交通省調査	
189	嘉瀬川水系	嘉瀬川	嘉瀬川ダム(建設中)	嘉瀬川ダム対策協力会	-	ダム水源地域サポート事業申請者	

注 アンケート対象欄の は送付、 は回答有りを示す。

	水系名	河川名	ダム名	団体名	事業名	出典	アンケート対象
190	嘉瀬川水系	嘉瀬川	嘉瀬川ダム (建設中)	嘉瀬川ダム対策協力会	-	国土交通省調査	
191	嘉瀬川水系	嘉瀬川	嘉瀬川ダム (建設中)	ふじグリーンネットワーク	-	国土交通省調査	送付先不明
192	本明川水系	本明川		諫早小学校・本野小学校	-	国土交通省調査	
193	本明川水系	本明川	本明川ダム	劇団ふるさときゃらばん	-	国土交通省調査	
194	菊池川水系	菊池川	竜門ダム	各関係機関及び流域内小学校	-	国土交通省調査	
195	菊池川水系	菊池川	竜門ダム	菊池川流域連携会議(流域内12団体)	-	国土交通省調査	
196	白川水系	白川		白川流域リバーネットワーク"しらかわの日"実行委員会	-	国土交通省調査	
197	白川水系	白川	立野ダム	くまもと川の女性フォーラム	-	国土交通省調査	
198	白川水系	白川 黒川	立野ダム	国土交通省 立野ダム工事事務所	-	国土交通省調査	
199	白川水系	白川 黒川	立野ダム	国土交通省 立野ダム工事事務所	-	国土交通省調査	
200	白川水系	白川 黒川	立野ダム	NPO白川わんぱく探検隊	-	国土交通省調査	
201	緑川水系	緑川	緑川ダム	緑川の日実行委員会(委員長 荒木嘉島町長) 共催:NPO法人緑川流域連携会議 後援:熊本河川 国道事務所 緑川改修期成会(熊本県及び緑川流 域各市町村)	-	国土交通省調査	
202	緑川水系	緑川	緑川ダム	NPO法人天明水の会	-	国土交通省調査	
203	球磨川水系	球磨川 川辺川 阿蘇川		人吉・球磨自然保護協会	-	河川協会「川や水の活動 団体名簿」	
204	球磨川水系	球磨川	市房ダム	球磨川水系ネットワーク	-	国土交通省調査	
205	球磨川水系	川辺川	川辺川ダム	川辺川ダム砂防事務所	-	国土交通省調査	
206	球磨川水系	川辺川	川辺川ダム	川辺川ダム砂防事務所	-	国土交通省調査	
207	大野川水系	大野川	川辺ダム、白 水ダム、大谷 ダム	大野川流域ネットワーク・大野川流域懇談会・ NPO法人河童倶楽部 白山川を守る会、沈没滝を守る会、大野川桜づつみ 愛護会など	-	国土交通省調査	
208	番匠川水系	番匠川		本匠村、佐伯MARINEロータリークラブ、番匠川流 域ネットワーク	-	国土交通省調査	
209	五ヶ瀬川水系	五ヶ瀬川		延岡アースデイ実行委員会、NPO法人五ヶ瀬川流 域ネットワーク	-	国土交通省調査	
210	大淀川水系	大淀川		大淀川流域ネットワーク	-	国土交通省調査	
211	川内川水系	川内川	鶴田ダム	川内川流域連携ネットワーク	-	国土交通省調査	
212	川内川水系	川内川	鶴田ダム	せんたいがらっぱ共和国、えびの市商工会青年部	-	国土交通省調査	
213	肝属川水系	肝属川		肝属川水質汚濁防止連絡協議会(国土交通省・鹿 児島県・鹿屋警察署・高山警察署・大隅肝属地区消 防組合・鹿屋市・垂水市・吾平町・高山町・串良町・ 東串良町・大崎町・輝北町)	-	国土交通省調査	
214	沼田川水系	沼田川		福富町上下流推進会議「水水倶楽部」	まちづくりは住民が主役 水源のまち福富から	ダム水源地ネット2004.6月 号	
215	多々良川水系	鳴淵川	鳴淵ダム	福岡県篠栗町	上流域と下流域の連携 鳴淵ダム	ダム水源地ネット2004.3月 号	
216	羽地大川水系	羽地大川	羽地ダム	[水源地と消費地の交流会]実行委員会 (沖縄県企画開発部 地域・離島振興局、北部ダム 事務所、水源地側市町村、消費地側市町村)	-	国土交通省調査	
217	大保川水系	大保川	大保ダム		-	国土交通省調査	
218				滋賀県 信楽町 杉森 一夫	信楽町水のふるさと創 生構想(ラブリバー21)	河川環境管理団体「河川 整備基金助成事業デー ベース」	
219				鹿児島県 九州ダムサミット実行委員会	ダムサミット	河川環境管理団体「河川 整備基金助成事業デー ベース」	
220				東京都 ダム水源地地交流協議会(現在:全国市町村 川交流会)	上下流交流促進全国E ポート大会の実施	河川環境管理団体「河川 整備基金助成事業デー ベース」	
221				全国水環境交流会	・流域社会の再構築を 行うためのコンセンサ スとシナリオづくり ・流域連携社会の実現 に向けたフォーラムの実 施、ノウハウの整理や流 域の情報交換促進	河川環境管理団体「河川 整備基金助成事業デー ベース」	
222	佐賀県内の河川	県内河川全て		佐賀水ネット(団体数82団体)	-	国土交通省調査	
223				さが水環境フェア実行委員会	-	国土交通省調査	

2.3 アンケート内容の検討

選定した事例に対して、アンケートで調査を行う項目について検討し、委員会の学識経験者の意見をふまえ以下の通りとした。

上下流連携（源流地域と下流域との交流活動） 事例調査票

上下流連携の事例について、以下の項目にお答えください。

団体名		NPO 登録	有（ 年 ） 無
担当者氏名		E-MAIL アドレス	
電話番号		F A X 番号	
ホームページアドレス			

設 問 1	貴団体が所在する都道府県名・市町村名、上下流連携に関連する水系名・河川名をお教えてください 都道府県名： 市町村名： 水系名： 河川名： また、上下流連携地域内にダムがある場合は、そのダム名をお教えてください ダム名：
設 問 2	上下流連携の相手の団体について教えてください (団体名・担当者氏名・所在地・電話・E-mail アドレス)
設 問 3	上下流連携の具体的な内容についてお答えください) 連携の目的：(複数回答可) 人の交流 美化・環境保全 学習・教育 森林保全・水源地保全 地域の活性化 その他 ()) 活動の開始年：) 連携の活動内容：
設 問 4	上下流連携に対する行政等からの支援（補助、助成）についてお答えください) 支援、助成の有無（有の場合は支援元もお教えてください）： 有 無 支援元()) 具体的支援内容：

設 問 5	<p>上下流連携に係わる地域に、比較的知られている地域資源がある場合にはお答えください</p> <p>地域資源とは、自然公園、天然記念物、史跡、景勝地、寺院、物産等です</p>
設 問 6	<p>上下流連携を実施することによる利点、問題点、課題についてお答えください</p> <p>利点： (例えば、水源地の森林の保全、地域の活性化、観光産業の発展 など)</p> <p>問題点： (例えば、一過性の取り組みになりやすい、参加者が少ない、資金が不足している など)</p> <p>課題：</p>
設 問 7	<p>上下流連携に限らず貴団体が経験された問題点、課題や制度改正への要望等がありましたら具体的にお教えてください</p> <p>(例：下流の小学校に対して本団体の活動に生徒の参加を打診したが、万一の事故に対する保険の付与につきカバーできないとの理由により実現しなかった。円滑な小・中学生の参加が可能となるよう保険をカバーする助成・補助等をいただきたい)</p>

以上です。ありがとうございました。

(財)ダム水源地環境整備センター

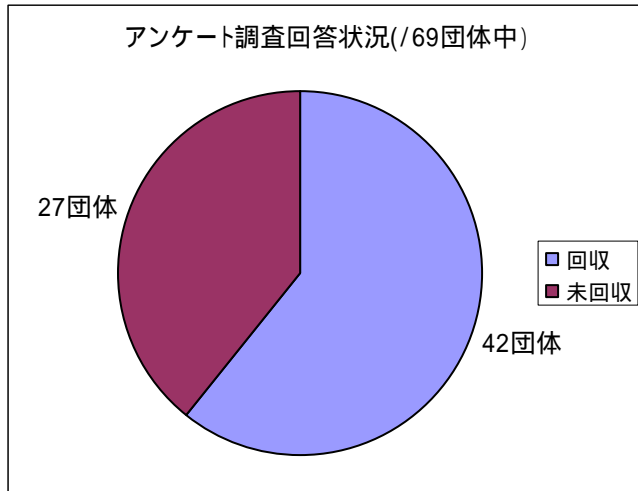
2.4 アンケート調査結果とその分析

2.4.1 アンケート回答のあった事例とその分類

(1) アンケートを実施した事例数と回答数

31 水系の 69 団体に対してアンケートを発送し、そのうち 23 水系の 42 団体から回答があった（回収率 60.9%）。

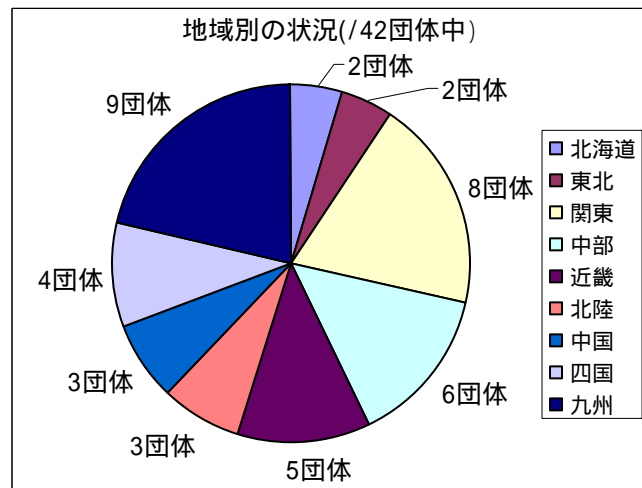
42 団体の回答内容は、巻末資料に整理した。



(2) 回答のあった事例の分類

地域別の状況

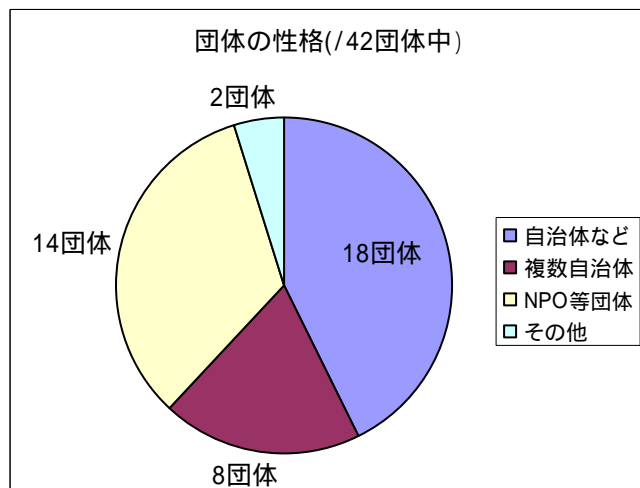
回答のあった 42 団体を、地域別の内訳で見ると、関東と九州がやや多いものの、全国から回答が寄せられた。



連携主体団体の性格（自治体、NPO 等団体、その他）

連携の主体となっている団体の性格を見ると、単体の自治体等行政が主体となっているものが全体の約半数を占めている。複数自治体とは、協議会等で自治体が連携している場合を指す。

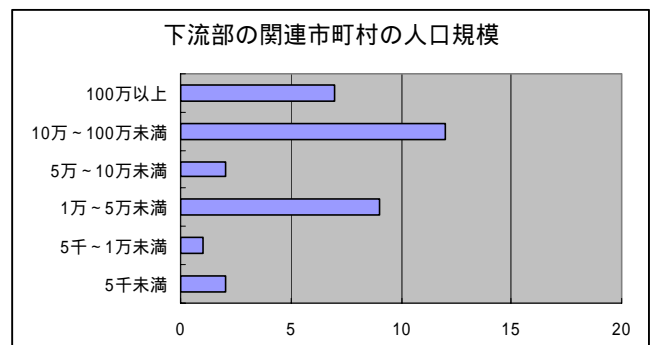
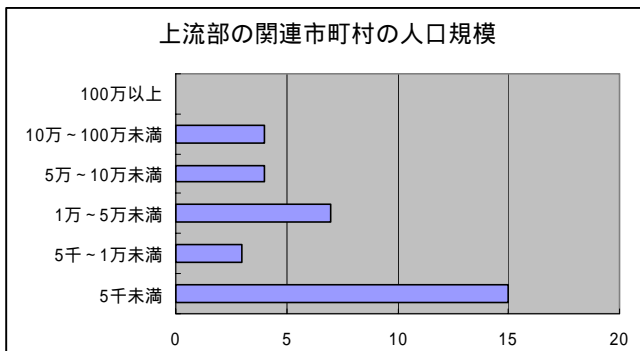
その他の 2 団体は、民間企業が事務局を担っているもので、五ヶ瀬川流域で森林植樹や、不法投棄問題の解決に取り組んで



いる延岡アースデイ実行委員会と、筑後川流域の中津江村にて、森林ボランティア活動や森林キャンプを実施している田島山業（株）であった。

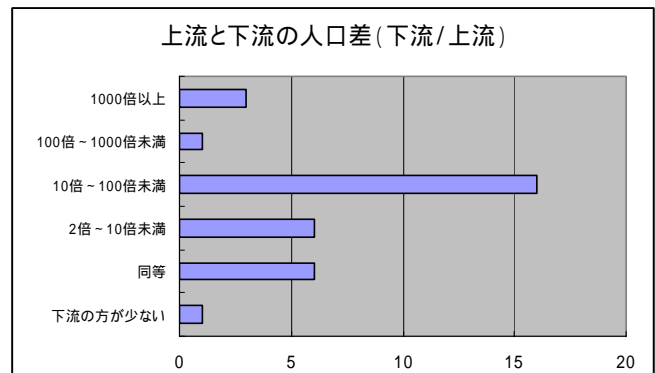
上下流連携の人口との関わり

アンケートの回答があった42団体について、連携している上流側と下流側の人口規模（連携に関わっている市町村人口の合計）を整理したところ、上流側では人口5千人未満のところが多く、下流側では10万～100万人未満のところが多かった。



上流側と下流側の人口の差については、下流側は上流側の10倍から100倍程度の人口規模をもつところが最も多かった。

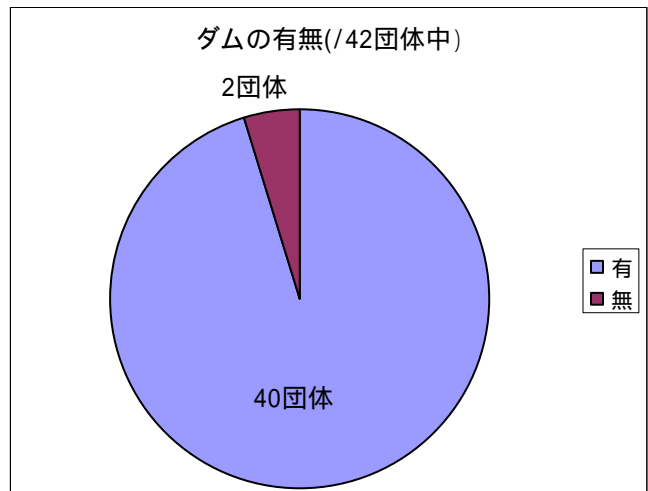
ついで、同等が6事例（うち、同じ自治体内での連携が4事例）、2倍から10倍程度が6事例であった。



ダム水源地との関わり（ダム湖の有無）とダム湖の活用状況

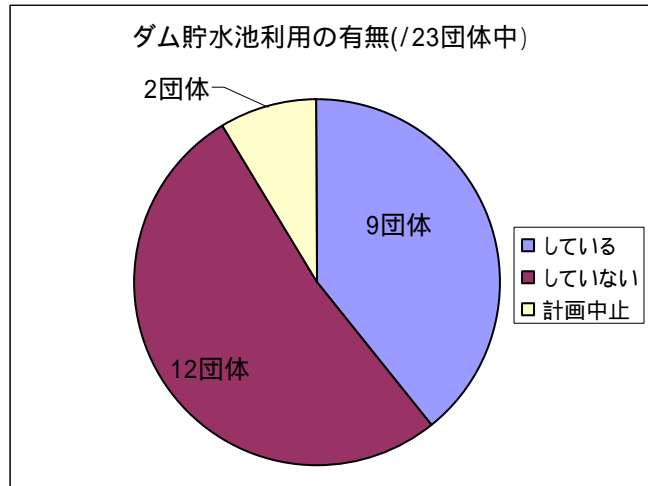
回答の中で上下流連携地域内にダム湖がある事例は、40 事例（95%）となっていた。

ただし、その後、23 事例について電話等で確認したところ、ダム湖を上下流連携の資源として活用している事例は、以下の通りであった。



§ ダム貯水池を利用しているか

- ・ 利用している（9 団体）
- ・ 利用していない（12 団体）
 活用の内訳は、ダム施設の見学、カヌー体験・E ボート体験、ダム周辺への植樹などであった。



§ ダム湖の存在は、上下流連携にどのように役立っているか。またそのメリット、デメリットは何か。

メリット：

- ・ 体験を通して上流地域（ダム周辺）に対する感謝の気持ちがうまれる。（北上川流域市町村連携協議会）
- ・ 水の大切さを説明する際には無くてはならないものである。（横浜市水道局、水源地域交流の里づくり推進協議会）
- ・ ダムを PR することで上流域の理解を深めてもらうことができる。（サマーレイクフェスティバル2004実行委員会）
- ・ イベント時の交流の場の象徴になっている。（池田へそっ湖まつり実行委員会）

デメリット：

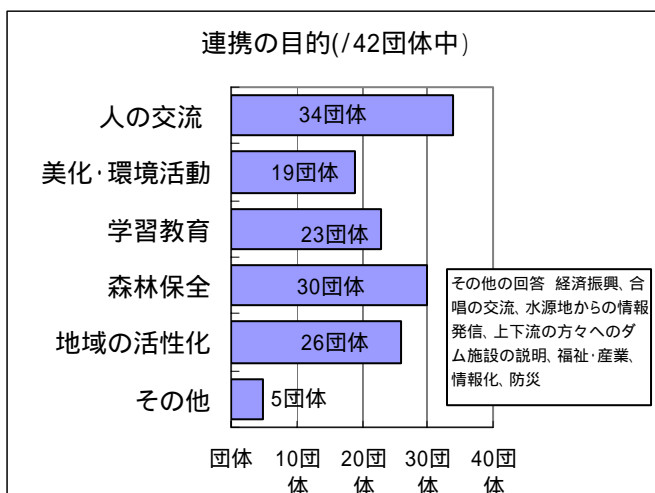
- ・ ダム迄の距離が遠い為移動時間がかかる。（北上川流域市町村連携協議会）

2.4.2 アンケート回答結果

(1) 上下流連携の目的・活動内容

42 団体から回答があった連携の目的(複数回答)は、右のような結果であった。最も多かったのが人の交流で、全体の8割が該当し、次に森林保全・水源地保全で全体の7割が該当した。

その他の回答として、経済振興や文化交流、情報発信等があった。



主たる活動の内容

それぞれの活動内容は、大きく分けると次のものがあげられた。

➤ イベントを通じた人の交流

- ・ 神奈川県内の 22 市町村を水源地域に招き体験教室に参加、住民の交流を図っている。(水源地域交流の里づくり推進協議会)
- ・ 「ダム見学と植樹ツアー」「淀川水のふるさとフェア」を行い水源地の役割や郷土紹介、郷土特産品の展示・即売を行っている。(淀川ダム水源地ネットワーク)

➤ 森林保全のための美化、環境活動

- ・ えにわ湖及びその周辺のゴミ拾い清掃、ダム貯水池周辺への植樹を実施している。(漁川の水を守る会)
- ・ 源流茅野山林の一部を川上村から借り上げ、市民の手による植樹、下草刈り等の育林作業「和歌山市民の森づくり」を実施している。(吉野川・紀ノ川流域協議会)

➤ 学校等の環境教育・学習活動

- ・ 千葉県内の小学 4～6 年生が八ツ場ダム建設予定地の長野原町を訪れ地元小学生との交流会を実施している。(千葉県上下流交流事業実行委員会)
- ・ 小学 4 年生を対象としダム施設見学、各種教室、記念植樹等を行う交流会を実施している。((独)水資源機構愛知用水総合事業部)

➤ 森林保全のための活動(基金や植樹苗里親制度等の運用)

- ・ 木曽川において上下流域が連携して、水源保全の為に森林整備を推進することを

目的とし森林整備協定を締結。また上下流それぞれで森林整備に活用する為の基金を設置。基金を元に民有林の整備を平成 17 年度より実施予定。(木曽広域連合)

- ・どんぐりの里親制度を実施し植林を実施している。(未来世紀つなぐ緑のバトン実行委員会、三重県木曽岬町)
- ・会費を集め、嶺北 5 箇町村へ寄付を実施、年数度源流域を訪問している。(吉野川源水をはぐくむ会)

➤ 文化・芸術活動

- ・利根川源流讃歌を作り、上下流イベント時に歌っている。(合唱組曲「利根川源流讃歌」発表実行委員会)
- ・地域資源である棚田を活用し、酒米を生産しそこから大吟醸酒を醸造、上下流の会員、ボランティアへ提供している。(プロジェクト京ヶ原実行委員会)

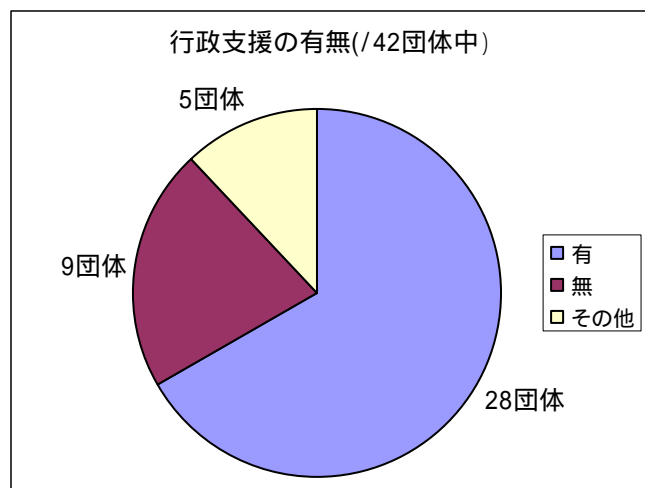
(2) 行政支援の実態

回答のあった 42 団体のうち、行政からの支援があると答えたのは、66.6%にあたる 28 団体であった。

その他の 5 団体は、主体が行政なので、他行政からの支援は受けていない、という意味で該当せずと答えたものなどが該当する。

支援の内容は、資金が 22 団体、物品(ゴミ袋等)が 8 団体、施設(会場等)が 6 団体、広報が 5 団体、人的支援が 4 団体であった。

支援の必要性については、連携の問題点・課題として 4.1 で整理した。



(3) 上下流連携の利点

上下流連携の利点について質問したところ回答は、以下に分類される。

- 人の交流が生まれ、地域が活性化する。
- 水源地域の森林保全・整備への理解・関心が高まる。
- 地域の PR につながる。
- その他

詳細は以下のとおりである。

人の交流が生まれ、地域が活性化する。

- ・ 物産、人の交流があり、経済活動の活性化の一助となっている。(北上川流域市町村連携協議会)
- ・ 地域の活性化と都市住民との交流による、地場産業の発展が期待される。(宮城県七ヶ宿町総務課まちづくり推進室)
- ・ 山村の人々との交流の機会をつくることにもなり、山村の活性化にも結びつく。(中津江村市ノ瀬地区自治会)
- ・ 水源地への理解が深まり、ダムめぐりや藤原を訪れる人が年々増加している。(合唱組曲「利根川源流讃歌」発表実行委員会)

水源地域の森林保全・整備への理解・関心が高まる。

- ・ 上下流で積み立てている基金を活用することで、森林所有者の自己負担が軽減され森林整備が推進される。また下流住民が上流域の森林整備の必要性を認識することができる。(木曽広域連合)
- ・ 森林整備協定の締結により、今まで補助対象とならなかった高齢級の民有林整備が補助対象となり、森林整備が面的に進む。(木曽広域連合)
- ・ 森林整備が推進されることにより、林業従事者の雇用促進が図られる。(木曽広域連合)
- ・ 下流域に住んでいる子供達と共に活動することにより、子供達に森林を大切にすることを環境浄化につながることを体験活動させられる。(延岡アースデイ実行委員会)

地域のPRにつながる。

- ・ 多くの人に来ていただいて観光の発展も期待している。(猿ヶ京ネットワーク)
- ・ 水源地域の魅力をPRする効果が大きく、リピーターの確保に繋がる。(水源地域交流の里づくり推進協議会)
- ・ 下流でのイベントに参加し、木曽地域の観光PRを合わせて行うことで観光客の増加につながっている。(木曽広域連合)

その他の利点

- ・ 個々に開催していた川下り大会を連携し、スケールメリットの大きい大会として全国発信できる。(北上川流域市町村連携協議会)
- ・ 将来にわたって上下流交流の絆を結ぶことができる。((独)水資源機構愛知用水総合事業部)
- ・ ダム、水源地の役割を下流域に情報発信することにより、それぞれの役割を理解していただき、上流域の恩恵及び犠牲の上にあることを実体験していただける。(淀川水系ダム水源地ネットワーク)

- ・ 事業を継続実施することで様々な機会で広報されるようになり、広く一般の方々にも浸透しつつある。(上下流のふれあいを推進する会)
- ・ 各種団体の交流により、様々な情報交換を通じて意識の向上や、お互いの課題解決、新しい取り組みの参考となるなど活動内容の改善や人材育成につながる。(れいほくNPO)

(4) 連携活動の評価

連携活動に対する評価については、以下の意見が上げられた。

- ・ 文化賞等4件を受けているので対外的には理解が進んでいると考えている。県域を越えた連携は珍しいので評価は高いと思う。(北上川流域市町村連携協議会)
- ・ 交流を重ねてきたことで、千葉県の子供たちは水に関して詳しくなっていると思う。現に、作文コンクールで賞をとる等効果が出ている。ダム事業の推進に繋がっていると思うがそれを形で評価したものはない。(千葉県上下流交流事業実行委員会)
- ・ 参加者には喜んでもらっていると思う。しかし費用対効果を考えると効率が悪いと思う。また、連携がうわべだけになってしまっていないか不安である。(草木湖祭り実行委員会、横浜市水道局)
- ・ 流域全体で長野県の森を維持していかなければならないと思っており、受益地及びその近隣市町村に声をかけているが、そのことに対し少しは理解が進んでいると思う。(中部水道企業団)
- ・ 自分たちで飲んでいる水を自分たちで育てると言う自覚が目覚めている。(木曽広域連合、吉野川・紀の川流域協議会)
- ・ 住民に広く知れるようになった。(池田へそっ湖まつり実行委員会)
- ・ 下流域自治体が、上流域自治体の土地を取得することは珍しく、良いことであると評価されていると思う。(福岡県篠栗町)

3. 上下流連携の類型化

3.1 各視点による分類

アンケート調査を行った 69 団体のうち、回答のあった 42 団体について地域別、事業主体別について類型化のための分類を行った。また、連携目的、活動内容別については、電話聞き取り対象に選定した 16 団体に対し分類を行った。

(1) 地域別分類

地域別の分類は、次のとおりである。

表- 3.1 上下流連携活動団体の地域別分類

地域	団体数	団体名
北海道	2 団体	・漁川の水を守る会 ・沙流川サケ、マス、文化研究会
東北	2 団体	・北上川流域市町村連携協議会 ・宮城県七ヶ宿町総務課まちづくり推進室
関東	8 団体	・合唱組曲「利根川源流讃歌」発表実行委員会 ・猿ヶ京ネットワーク ・千葉県上下流交流事業実行委員会(千葉県水政課) ・草木湖祭り実行委員会(東村産業観光課) ・隅田川市民交流実行委員会(略称:隅田川サミット) ・多摩川源流研究所 ・横浜市水道局 ・水源地域交流の里づくり推進協議会
中部	6 団体	・NPO法人 グリーン・エコピア・ネットワーク ・上下流のふれあいを推進する会 ・木曽広域連合 ・中部水道企業団 ・(財)愛知・豊川用水振興協会+(独)水資源機構愛知用水総合事業部 ・未来世紀へつなく緑のバト実行委員会
近畿	5 団体	・三重県木曽岬町 ・淀川水系ダム水源地ネットワーク ・青山町川上ダム上下流交流会運営委員会 ・和歌山市 企画部 企画課 ・サマーレイクフェスティバル2004実行委員会
北陸	3 団体	・自然楽校・九頭竜 ・九頭竜まつり実行委員会 ・おおのネイチャーフィールド
中国	3 団体	・プロジェクト京ヶ原実行委員会 ・NPO法人斐伊川クラブ ・NPO法人ひろしまね
四国	4 団体	吉野川源水をはぐくむ会 れいほくNPO 早明浦湖水祭実行委員会 池田へそっ湖まつり実行委員会
九州	9 団体	・NPO豊前の国建設倶楽部 ・田島山業(株)+YMCA ・NPO法人 筑後川流域連携倶楽部 ・「水の森」の会 ・福岡県南広域水道企業団 ・桜祭り実行委員会 ・NPO法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会 ・福岡県篠栗町
合計	42 団体	

(2) 事業主体別分類

42 団体に対し、事業主体別の分類を行った。結果として、事業主体が行政であるもの、複数の行政が合同で実施しているもの、市民団体・NPO が主体であるが行政と繋がり強いもの（NPO・市民団体 1）とそうでないもの（NPO・市民団体 2）、その他民間企業が主体であるもの等の 5 つに分類することができた。

表- 3.2 上下流連携活動団体の事業主体別分類

事業主体	団体数	団体名
行政	17 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県七ヶ宿町総務課まちづくり推進室 ・草木湖祭り実行委員会(東村産業観光課) ・横浜市水道局 ・未来世紀へつなく緑のハト実行委員会 ・三重県木曾岬町 ・青山町川上ダム上下流交流会運営委員会 ・和歌山市 ・サマーレイクフェスティバル2004実行委員会 ・自然楽校・九頭竜 ・九頭竜まつり実行委員会 ・おおのネイチャーフィールド ・プロジェクト京ヶ原実行委員会 ・早明浦湖水祭実行委員会 ・池田へそっ湖まつり実行委員会 ・福岡県南広域水道企業団 ・桜祭り実行委員会 ・福岡県篠栗町
複数行政	8 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川流域市町村連携協議会 ・千葉県上下流交流事業実行委員会(千葉県水政課) ・水源地域交流の里づくり推進協議会 ・上下流のふれあいを推進する会 ・木曾広域連合 ・中部水道企業団 ・(財)愛知・豊川用水振興協会 + (独)水資源機構愛知用水総合事業部 ・淀川水系ダム水源地ネットワーク
NPO・市民 団体 1	2 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川源流研究所 ・れいほくNPO
NPO・市民 団体 2	13 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・漁川の水を守る会 ・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・合唱組曲「利根川源流讃歌」発表実行委員会 ・猿ヶ京ネットワーク ・隅田川市民交流実行委員会(略称:隅田川サミット) ・NPO法人 グリーン・エコトピア・ネットワーク ・NPO法人斐伊川クラブ ・NPO法人ひろしまね ・吉野川源水をはぐむ会 ・NPO豊前の国建設倶楽部 ・NPO法人 筑後川流域連携倶楽部 ・「水の森」の会 ・NPO法人天明水の会
その他	2 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・田島山業(株)+YMCA ・延岡アースデイ実行委員会
合計	42 団体	

(3) 活動内容別分類

電話アンケート対象 16 団体について、活動内容に関して分類を行ったところ、上下流連携の活動内容として森林ボランティア活動やイベント活動を行うことが最も多い事がわかる。また、少数であるが森林協定の締結や水源税の設立、地域循環経済の活性化等の戦略を含んだ活動を行っている団体も見受けられた。

表- 3.3 上下流連携活動団体の活動内容別分類

活動内容	団体数	団体名
イベント活動 ・フェスタ ・川の健康診断 ・クリーン作戦 ・流域フォーラム・セミナー ・源流写真展 ・施設見学会 ・笹巻き体験交流会 ・そば打ち体験交流会 ・あめぐレース	10 団体	・漁川の水を守る会 ・沙流川サケ、マス、文化研究 ・北上川流域市町村連携協議会 ・多摩川源流研究所 ・横浜市水道局 ・NPO 法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・田島山業(株)+YMCA ・NPO法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会
ボランティア活動 ・水源植林活動 ・22 世紀ブナの森づくり ・森林ボランティア ・木曾川水源の森ボランティア植樹 ・どんぐりの植林活動 ・和歌山市民の森づくり ・どんぐりの森づくり ・水源の森づくり ・漁民の森植林活動 ・水源の森復活	14 団体	・漁川の水を守る会 ・北上川流域市町村連携協議会 ・多摩川源流研究所 ・横浜市水道局 ・木曾広域連合+中部水道企業団 ・和歌山市 ・未来世紀へつなく緑のハト実行委員会+三重県木曾岬町 ・NPO 法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・田島山業(株)+YMCA ・「水の森」の会 ・NPO法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会 ・福岡県篠栗町
調査・研究活動	2 団体	・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・多摩川源流研究所
教育・啓蒙活動	3 団体	・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・多摩川源流研究所 ・「水の森」の会
森林協定の締結	3 団体	・木曾広域連合+中部水道企業団 ・和歌山市 ・「水の森」の会
水源税	1 団体	・木曾広域連合+中部水道企業団
地域循環経済活性化	2 団体	・NPO 法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO
不明	1 団体	・隅田川市民交流実行委員会

(4) 連携目的別分類

電話アンケート対象 16 団体について、連携目的に関して分類を行ったところ、人の交流、森林保全・環境保全が最も多くなっている。その他の連携目的として、経済振興、福祉、産業、情報化、防災をあげる団体が 2 団体あった。

表- 3.4 上下流連携団体の連携目的別分類

連携目的	団体数	団体名
人の交流	14 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・北上川流域市町村連携協議会 ・隅田川市民交流実行委員会(略称:隅田川サミット) ・多摩川源流研究所 ・木曽広域連合+中部水道企業団 ・未来世紀へつなく緑のハト実行委員会+三重県木曽岬町 ・和歌山市 ・NPO 法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・田島山業(株)+YMCA ・「水の森」の会 ・NPO法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会 ・福岡県篠栗町
美化・環境保全	8 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川流域市町村連携協議会 ・横浜市水道局 ・和歌山市 ・NPO法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・「水の森」の会 ・NPO法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会
学習・教育	9 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川流域市町村連携協議会 ・隅田川市民交流実行委員会(略称:隅田川サミット) ・多摩川源流研究所 ・和歌山市 ・NPO法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・田島山業(株)+YMCA ・「水の森」の会 ・NPO法人天明水の会
森林保全・水源 地保全	14 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・北上川流域市町村連携協議会 ・多摩川源流研究所 ・横浜市水道局 ・木曽広域連合+中部水道企業団 ・未来世紀へつなく緑のハト実行委員会+三重県木曽岬町 ・和歌山市 ・NPO法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・田島山業(株)+YMCA ・「水の森」の会 ・NPO法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会 ・福岡県篠栗町

(次ページにつづく)

(前ページからのつづき)

連携目的	団体数	団体名
地域の活性化	11 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・北上川流域市町村連携協議会 ・隅田川市民交流実行委員会(略称:隅田川サミット) ・多摩川源流研究所 ・横浜市水道局 ・木曽広域連合+中部水道企業団 ・NPO法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・田島山業(株)+YMCA ・NPO法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会
その他	2 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川流域市町村連携協議会(経済振興) ・れいほくNPO(福祉、産業、情報化 平成17年度以降、防災を追加予定)
不明(未記入)	1 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・漁川の水を守る会

(5) 活動開始年による分類

電話アンケート対象 16 団体について、活動開始年別による分類を行ったところ、活動開始年が 10 年未満のものが大半を占めた。これは、昨今の環境への関心の高まりや、森林保全の重要性が広く唱えられはじめた社会背景があると考えられる。

少数であるが 20 年以上前から活動を始めている団体がある。これらは、行政と市民団体・NPO という実施主体に違いはあるが、水道事業による水源地域開発に伴う連携の為の活動実施である。

表- 3.5 上下流連携団体の活動開始年による分類

活動開始年	団体数	団体名
10 年未満	10 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・漁川の水を守る会 ・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・北上川流域市町村連携協議会 ・木曽広域連合+中部水道企業団 ・未来世紀へつなぐ緑のハト実行委員会+三重県木曽岬町 ・和歌山市 ・NPO 法人斐伊川クラブ ・れいほくNPO ・「水の森」の会 ・福岡県篠栗町
10 年以上 20 年未満	4 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川源流研究所 ・田島山業(株)+福岡 YMCA ・NPO 法人天明水の会 ・延岡アースデイ実行委員会
20 年以上	2 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市水道局 ・隅田川市民交流実行委員会

(6) 下流側の都市の規模による分類

電話アンケート対象 16 団体について、下流都市の人口規模に関して分類を行ったところ、大半が下流の都市は大規模都市であった。

事例が 16 と限られてはいるが、活動を続けるにあたっては下流側にある程度大きな規模の都市があった方が、やりやすい面があるものと思われる。

小都市に分類した沙流川と福岡県篠栗町であるが、沙流川は資金不足が課題であるとのことで、下流の都市の規模で活動が制限される傾向がうかがえる。篠栗町については、篠栗町と大分県上津江村の 1 対 1 の連携であるため、事情がやや特殊である。

表- 3.6 上下流連携団体の下流人口別分類

都市の規模	団体数	団体名
大規模都市	10 団体	・北上川流域市町村連携協議会 ・隅田川市民交流実行委員会 ・多摩川源流研究所 ・横浜市水道局 ・木曾広域連合+中部水道企業団 ・未来世紀へつなく緑のハト実行委員会+三重県木曾岬町 ・和歌山市 ・NPO 法人斐伊川クラブ ・田島山業(株)+福岡 YMCA ・NPO 法人天明水の会
中規模都市	4 団体	・漁川の水を守る会 ・れいほく NPO ・「水の森」の会 ・延岡アースデイ実行委員会
小都市	2 団体	・沙流川サケ、マス、文化研究会 ・福岡県篠栗町

(7) 分類のとりまとめ

以上の分類を通して考えられることを以下に示した。

- 行政が事業主体となっているところでは、フェスタや 祭などのイベント活動が多く目に付く。上下流連携の目的に合わせ、幅広く人を受け入れ、多くの人に知ってもらうため、間口を広く取った活動を行っている為であると考えられる。
- 事業主体を複数の行政が合同で実施しているところでは、流域内共同の制度の策定や、森林協定、水源税といった、一貫した流域内の制度を作ることができている。また、北上川流域連携協議会の例に見るように流域内の連携のプランをそれぞれの自治体プランに乗せて計画することができるという利点も持ち合わせている。
- 市民団体・NPO の中でも行政との繋がり強い団体が事業主体となっているところでは、活動内容の中に戦略を持っているところがあり、地域の循環経済や地域の総合活性化などのプランを考えている。例えば、れいほく NPO の事例に見るように過疎化の進んだ嶺北地域で、地域ブランドを立ち上げそれを核とした地域循

環経済の立案を行っているところが挙げられる。

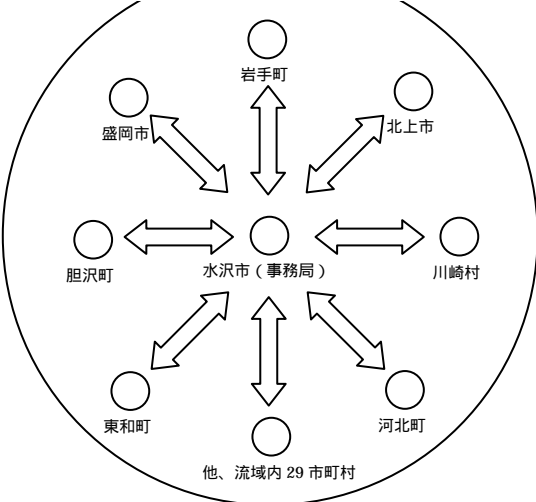

- 市民団体・NPO が事業主体となっているところは、会の発足理由により様々な方向の活動を展開しており、傾向をみるのが難しい。様々な人を取込もうと裾野の広い活動を展開している団体と、核となる活動があり、それに向かって特化した活動を実施している団体等がある。これらの中には、NPO法人斐伊川クラブや「水の森」の会のように、市民団体やNPOの動きやすい利点を生かし、流域内で恒常的な連携をはかろうとしているところもある。
- 民間企業が事業主体となっているところでは、企業間で連携活動を行っている。これらでは、森林ボランティアやそれに付随したイベントを行っており、目的や意識のハッキリとした活動が実施されている。

3.2 事例の類型化

今までの分類をふまえつつ、代表的な下記の3事例について、連携のパターン化を行った。

- ・ 漁川の水を守る会
- ・ 北上川流域市町村連携協議会
- ・ 木曽広域連合と中部水道企業団

団体名	漁川の水を守る会	
所在地・水系名	北海道恵庭市、 石狩川水系漁川	
連携の相手	NPO 法人水環境北海道 市民団体等(17団体)で連携	
連携パターン	<p>The diagram illustrates the partnership model. On the left, three ovals represent 'Sapporo Beer', 'Yamazaki Pan', and 'Local Companies'. Three arrows labeled '支援' (Support) point from these ovals towards a central oval labeled '漁川の水を守る会' (Fishing River Water Protection Association). Below this central oval, a double-headed arrow labeled '連携' (Partnership) connects it to another oval at the bottom labeled 'NPO 法人水環境北海道 等市民団体(全17団体)' (NPO Water Environment Hokkaido and other citizen groups, all 17 groups).</p>	
連携の内容と特徴	活動状況	
えにわ湖は近隣市町の水道水源であり、安全な水を守るため、環境のために、そして次世代へ命の源であるかけがえない水を継承するために、流域が一体となって環境保全活動を実践することを目的とし、えにわ湖およびその上流周辺のゴミ拾い清掃、ダム貯水池周辺への植栽を行う、えにわ湖慈しみフェスタを市民と共に流域内連携を取り実施している。	<p>写真- えにわ湖慈しみフェスタの清掃風景</p>	
この団体の特徴は、市民団体が事業主体で、民間企業からの支援が多いことである。	<p>写真- サリカの植樹風景</p>	
秘訣やノウハウなど		
(民間企業からの支援を多く受けるための秘訣について)地元の企業に最初の段階で正式に話をしにいったので、心良く支援してくれる。		
これとってノウハウや秘訣はないが、地元企業にきちんとした説明をして、協力依頼を飛び込みで行うのもひとつの手であると考えられる。		

団体名	北上川流域市町村連携協議会	
所在地・水系名	岩手・宮城県内の北上川本川沿い全市町村及び支川沿いに合わせた 36 市町村、北上川水系北上川	
連携の相手	岩手・宮城県を流れる北上川を軸に流域の町村(36 自治体)で連携	
連携パターン	<p style="text-align: center;">北上川流域市町村連携協議会</p> 	
連携の内容と特徴	<p>北上川流域市町村が、流域の風土、文化を活かし、主体性と創意工夫を基調としながら、地域の資源を共有・補完し合うことにより、交流・連携を促進し、地域活性化を図ると共に、新たな文化を創造し、より豊かで快適な地域づくりを目的として、環境調査・研究、流域・河口域清掃、水源池保全、河川イベント、経済活動を実施している。</p> <p>この団体の特徴は、行政の複合体が実施主体であり、流域プランを各行政のプランとあわせて計画することができる点である。</p>	活動状況
秘訣やノウハウなど	<p>一般的な事務局体制は、人事異動と共に担当者が変わり、人の繋がりが崩れてしまう。この団体では、事務局担当者が人事異動により部署移動しても、移動先部署で担当業務と事務局業務を兼務する。会長である市長の発案で担当者は現在 2 名であるが、協議会の流れを把握した人ができ、人の繋がりが崩れる事無く、マンネリ化せず実施されている。画期的方法と考えられる。</p>	 <p>写真- 22 世紀ブナの森づくり植樹風景</p>
		 <p>写真- 「北上川の健康診断」発表会</p>

団体名	木曽広域連合
所在地・水系名	長野県木曽郡 10ヶ町村の連合 木曽川水系木曽川
連携の相手	愛知中部水道企業団
連携パターン	<div style="text-align: center;"> <p>木曽広域連合</p> <p>○ 木祖村 ○ 木曽福島町 ○ 王滝村 ○ 南木曽町 ○ 他 1 町 5 村</p> <p>連携</p> <p>愛知中部水道企業団</p> <p>○ 名古屋市 ○ 日進市 ○ 三好町 ○ 東郷町 ○ 他 1 市 1 町</p> </div>

連携の内容と特徴

木曽地域振興構想のテーマである「みどりの交流・創造フィールド」を目指し 森林整備協定の締結(平成 15.2 月)、基金の設置、基金を活用した森林整備の推進、上下流域住民の交流を図っている。

この団体の特徴は、上流、下流の広域的行政団体が連携して活動しており、それぞれが森林整備を目的とした基金を設置している点である。

秘訣やノウハウなど

(広域行政組織の連携について) 上流・下流の広域行政組織お互いが強い森林保全の意識を持っている。また、この意識レベルが同程度のものであるからうまく行っていると思われる。お互いの意思の疎通が重要であると考えられる。

活動状況



写真- 森林教室の風景



写真- 間伐作業風景

4. 上下流連携の推進方策に関する検討

4.1 上下流連携の現状と問題点・課題

事例で見てきたように、上下流連携は活動ごとに様々な目的をもって行われている。しかし、アンケート調査やヒアリング調査を行った結果上下流連携活動において様々な問題点や課題点を抱えていることがわかる。分類すると概ね以下のように分類できる。

資金不足
人材の確保
参加者の確保（広報）
地元の協力
活動の継続性
その他

資金不足

- ・ 活動している年度の途中で助成が決定するので活動計画を立てにくい。決定通知を早くして欲しい。（北上川流域市町村連携協議会）
- ・ 自分たちで資金を出して活動しているが、ボランティアの活動のみで限界がある。（沙流川サケ、マス、文化研究会）
- ・ 間伐を行うのに材価が安い上に補助金の対象にならずに採算が合わない。やればやるほど赤字になる。森林組合と同じように補助金が出れば十分に実施できると思う。（グリーン・エコトピア・ネットワーク）
- ・ 単年度の補助、助成ではなく、継続した支援をいただきたい。（れいほくNPO）
- ・ 各町村から必要経費をいただいているが参加者が予定人数より変化することが多いので報告の際に問題が生じている。人数や規模によって予算が決定する助成の枠組みに問題があるのではないか。（水源地域交流の里づくり推進協議会）
- ・ 市町村合併により今まで協力いただいていた行政の助成が継続されるか心配である。（蜂ノ巣湖桜まつり実行委員会）
- ・ 県と国とで助成の申請様式が異なる為、同様の内容で何種類も書類を作らなければならない、申請にかかる時間と助成してもらえるお金を考えると、割に合わない。（福岡県篠栗町）
- ・ 助成の使用目的により、使う人が限られてしまうので、使用の幅に弾力性があつたほうが良い。例えば森林インストラクターの有資格者数で、チェーンソーの数が限られてしまうなど。また環境教育活動をボランティアという形で企画、準備、指導を行うことには無理がある。活動の価値を認識し、正当な対価を支払うべき物であることを認識すべきである。（田島山業株）

人材の確保

- ・ 児童交歓のときの話であるが、楽しくなるかどうかは、先生の魅力が大きく占める。ネーチャースクール等をできる人が育つと良い。(千葉県上下流交流事業実行委員会)
- ・ 観光ボランティアのような施設や歴史を話せる人材を育てられていければよい。(横浜市水道局)
- ・ 技能の熟練者を招待して活動を行っているが、高齢化している。若い人たちに対して養成講座を行える人が必要である。(水源地域交流の里づくり推進協議会)
- ・ 森林インストラクターに近い、技術を持った人が少ないのでそういう人が欲しい。(田島山業(株))
- ・ ボランティアが高齢化しているため、体験活動を行うのが難しい。(木曽広域連合)
- ・ 下流、中流に上下流連携をコーディネートする拠点、人材が不足している。(多摩川源流研究所)
- ・ 同様の活動をしている団体等の情報交換会や研修の場が欲しい。(北上川流域市町村連携協議会)

また、電話聴き取りを実施した 23 団体に、人材バンクについてその有効性を聞いたところ、9 団体が必要であると答えた。

人材バンクは、どのようなものがよいか、との問いには、下記のような答えがあった。

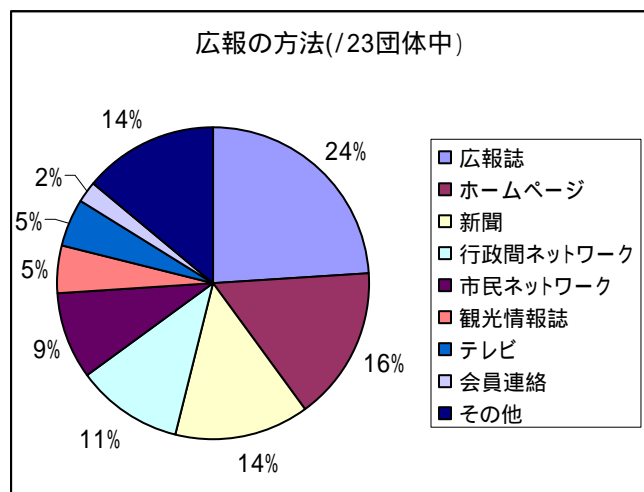
- ・ 金銭的に負担がかからないものが望ましい。(宮城県七ヶ宿町総務課まちづくり推進室、横浜市水道局)
- ・ 地域密着で活動できる人がよい。(水源地域交流の里づくり推進協議会)
- ・ 水源地域の地域活性化アドバイザー、講習会等ができる人がよい。(水源地域交流の里づくり推進協議会、中部水道企業団)

参加者の確保(広報)

電話聴き取りが実施できた 23 団体に対し、参加者の確保について、広報の方法を尋ねると、右図のとおりであった。

PRに関する問題点・課題としては、以下があげられた。

- ・ 幅広い人々の目に留まりやすいかどうか不安である。(千葉県上下流交流事業実行委員会)



- ・ 一方的なものでしかないので、住民からの意見を受けて、方法を変えていきたい。(横浜市水道局)
- ・ 学校等での参加を呼びかけているが、教育委員会等の理解が得られにくい。(北上川流域市町村連携協議会)
- ・ ダム所在地が広報地域より離れてしまっているので理解が進みにくい。(サマーレイクフェスティバル2004実行委員会)
- ・ 人の目に留まり易い広報とはどういったものか模索している。(田島山業(株))
- ・ 市民団体、NPOに密に連絡をしていきたい。(福岡県南広域水道企業団)
- ・ 源流の情報が流域に届いていない。流域の市民の関心やニーズに応えられる情報発信体制の確立が課題である。(多摩川源流研究所)

地元の協力

- ・ 地元の人にも会議に入ってもらっている。(宮城県七ヶ宿町まちづくり推進室)
- ・ 活動をした成果が地域の人達に見えてこないため参加率が低い。(沙流川サケ、マス、文化研究会)
- ・ 流域市町村は自分の町のことで頭がいっぱい。町村域を超えて連携をしていこうという空気がない。(NPOひろしまね)
- ・ 参加者が比較的高齢である。(筑後川流域連携倶楽部)
- ・ 現在の交流事業は、下流住民が上流地域に来る事業のみであり、上流地域住民が下流地域に出向く交流事業が行われていない。相互交流に取り組む必要がある。(神奈川県企画部水資源対策室)
- ・ 上下流の人々の参加意識の傾向がちがう。下流の人の方が積極的である。(北上川流域市町村連携協議会)

継続性(マンネリ化、人の異動等)

- ・ 行政組織であるため、年度ごとに担当者が変わり、継続性・発展性がない。活動としては、水環境事業ということで子供達を対象としていて、対象の小学5年生が年々変わるので、マンネリ化せずに行っている。(北上川流域市町村連携協議会)
- ・ 地元に根付く形の事業を行う必要がある。小学校の授業の一環として上下流交流を行っている。(千葉県上下流交流事業実行委員会)
- ・ 上下流連携を重要視して行っている。これまで続けてきたので村も期待している。((独)水資源機構愛知用水総合事業部)
- ・ 市町村合併のため、今まで地元の窓口であった役場が無くなるので、今後の交流等に支障が起こればと考えられる。(福岡県篠栗町)
- ・ 行政の壁が高く流域で何かやろうとすると、よその人達がきてやっているということになりやすい。20年実践活動を続けてやっと理解してもらえる感じである。(豊前の国建設倶楽部)

その他

- ・ 水源地の森林、水を守るため下流の市町村は協力しやすい制度があればよい。(漁川サケ、マス、文化研究会)
- ・ 源流域の資源を流域単位で保全、管理する仕組みを編み出す必要がある。お互いにとってメリットとなるものを探りあてる事が大切である(多摩川源流研究所)
- ・ 流域の自治体としての「水源の森を育てる」ことへの責任を果たす必要がある。(多摩川源流研究所)
- ・ 行政の区割りが多岐に渡っているため、流域総合マネジメント部署が必要。源流から河口までの「治水・環境・活性化活動」を総合的に推進するしくみが必要である。(NPOひろしまね)
- ・ ボランティア活動に留まらず、コミュニティビジネスの視点から組織運営を展開する必要がある。(れいほくNPO)
- ・ NPOと行政、企業との人的交流ができれば連携が進むと考えられる。(筑後川流域連携倶楽部)
- ・ 次世代に繋げる活動、次世代育成のためにも国土交通省など単位の省の取り組みでなく、各府省が組んだ取り組み、支援、助成を行っていただきたい。(延岡アースデイ実行委員会)